

安心のカタチを造る

私たちベルテクスは、自然災害の絶えないこの国で、家族や友人がどこに住んでいても安心して暮らせることを願い、地震や豪雨災害が発生したとしても、人々が安心して暮らせる未来を築くための挑戦を続けます。

— インフラには災害時などに改めて気づかされる、目に見えない部分が多くあります。今のような技術やソリューションに取り組みられていますか？

ベルテクスのパーパスは「『オンラインの技術』と『ユニークな発想』で世界の人々の未来に安心の新しいカタチを提供します」。このパーパスを掲げ、私たちだからこそできる技術で人々に貢献します。例えば、①社会資本整備において欠かすことのできない下水道整備に使用されるコンクリート製管路資材であるヒューム管やボックスカルバート、②それらを管理するマンホール、③浸水被害から人命や財産を守る雨水貯留システム、④豪雨の影響を受け多発する落石や土砂災害を防ぐ高エネルギー吸収型防護柵、⑤災害時に人々の生活を衛生的に保つ非常用トイレシステム、そして⑥火災時の消火活動において必要な水源を確保する防火水槽。このように数多くの技術を有していますが、どれも人々の生活に欠かせない「水」と深く関わっています。飲料水として、食物を育む恵みとして、また上下水道整備を通じて衛生的な生活を支える基盤として、そして、災害が発生すれば命を守る存在として、その重要性は計り知れません。しかし一方で「水」は脅威にもなり、時には豪雨によって人命や財産を

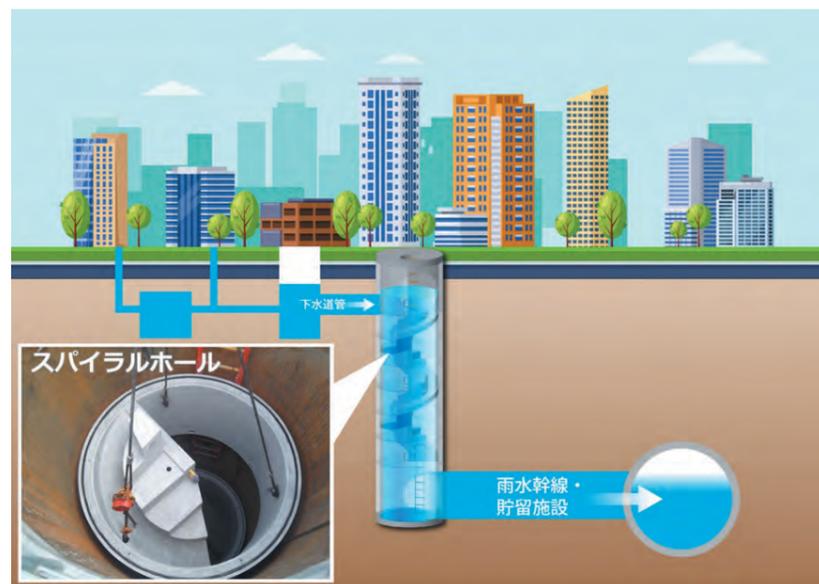
脅かす存在にもなります。当社は、この「水」の持つ二面性と向き合い、その恩恵を最大限に活かしながら、一方では、その脅威を最小限に抑えるために、人々に「安心の新しいカタチ」を提供し続けます。

— 「提言2024」は、どの部分に関心をお持ちしていますか？

「50年後の持続可能な水循環日本」を目指す上では、自然災害の一つである豪雨災害への対策は必要不可欠です。ここで、当社独自の技術を一つご紹介します。近年、降雨量の増加

により、地上近くに埋設された地下水路では、雨水を処理しきれないケースが増えています。その対策の一つとして構築されているのが大深度の地下河川水路ですが、この水路への流入の際、流量の確保、騒音防止、維持管理等、多くの課題がありました。そこで当社は、水を旋回させながらスムーズに流すことができる画期的な製品、「スパイラルホール」を開発しました。地表の雨水を効率的に地下河川水路へ送るだけでなく、維持管理の利便性も考慮し製品本体には螺旋階段を備え、管理者が安全かつ容易に地下河

■ 高落差対応組立式マンホール「スパイラルホール」



川水路へアクセスできるよう工夫した製品です。現在、全国約200箇所以上で採用されていますが、例えば、東京都内某所では約50mの深さのスパイラルホールも設置されています。その深さを地上に見立てれば、東京ドームの天井に匹敵します。

— 今後の中長期の展望について、新たなチャレンジを含めお聞かせください。

高齢の防火水槽も火災発生時の消火活動に貢献できるように。防火水槽は、火災時の初期消火や消火栓が使用不能になった際の貴重な水源であり、生活用水としても活用できる重要な施設です。その有用性は、能登半島地震や阪神・淡路大震災などの災害時にも改めて認識されました。防火水槽の適切なメンテナンスは、大切な人命や財産を守るために不可欠です。当社は昭和59年に（一社）日本消防設備安全センターより型式認定第1号を取得したプレキャスト製防火水槽「HC式防火水槽」を提供しています。しかし、日本には設置から50年経過した防火水槽が約15万基あり、その多くが現在も現役です。これらの防火水槽は、適切なメンテナンスがなされない場合、十分な機能を発揮できないリスクがあります。当社では、高齢化した防火水槽を調査・診断し、地震にも耐え、もしもの時に十分に水を蓄えた防火水槽として使用できるようにするメンテナンス技術を有しています。防火水槽の改修には多くの自治体が財源確保に苦慮していますが、水が入っていない防火水槽では、万が一の際に役立てることはできません。当社は、水の恩恵と脅威の二面性と向き合いながら、これからも持続可能な社会に貢献を致します。



土屋 明秀氏
TSUCHIYA Akihide

ベルテクス株式会社 代表取締役社長

1962年 1月生まれ、静岡県出身。同志社大学商学部卒業。
1984年 スズキ(株)入社
2005年 日本ゼニスパイプ(株)入社
2013年 ゼニス羽田ホールディングス(株)取締役
2017年 同社代表取締役社長
2018年 (株)ベルテクスコーポレーション代表取締役社長に就任(現任)

■ 防火水槽の調査・診断とメンテナンス

